

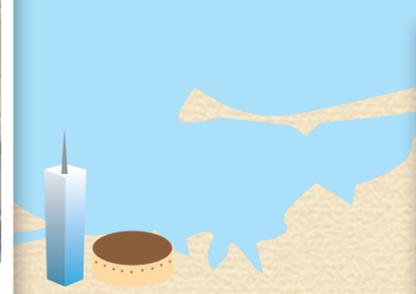
水の郷めぐり 第2回 福岡導水

水資源機構が管理するダム、水路、河口堰など様々な「水の郷」を巡る企画。水とともに生きる魅力あふれる町を訪れ、そこで働く人々をご紹介します。
第2回は、福岡・佐賀の暮らしを支える「福岡導水」です。

福岡導水は、福岡都市圏の人口増加等に伴う水道用水の需要増加に対処するものとして建設されました。筑後川上流にある江川ダム、寺内ダム、合所ダム（農水省）、大山ダム及び中流にある筑後大堰から補給を受け、久留米市の筑後川右岸側から取水し、途中、佐賀県基山町で佐賀東部水道企業団基山浄水場に分水して、福岡県大野城市の福岡地区水道企業団牛頸浄水場まで導水を行う施設です。延長約24.7kmの導水路と、取水制限のほかトラブルが発生した時に導水へ補給する山口調整池により、水道用水の安定供給を図っています。



5 山口調整池(天拝湖)
取水制限のほかトラブルが発生した時に導水へ補給します。



福岡地区水道企業団牛頸浄水場



2 福岡導水事業所・揚水機場
取水された水は、揚水機場のポンプによって高低差約84mを圧送されます。



令和4年4月よりダムカードの配布開始を予定しています！



1 取水口



3 思案橋水管橋
水管橋とは、管路が川や鉄道を横断するときに用いられる橋です。



4 味坂水管橋
福岡導水の管路は基本的にほとんど地中深いところを走っていますが、2箇所の水管橋だけは地上に露出しています。

筑後川の恵みを基山町・福岡都市圏へ

福岡市を中心とする福岡都市圏では、昭和30年代から40年代にかけて、都市の発展による人口増加と慢性的な水不足に悩まされてきました。また、佐賀県基山町は、地理的に福岡都市圏のベッドタウンとして都市化が進み、同じく水道施設の整備が急務となっていました。これに因應するため、昭和51年に水資源開発公団(現在の水資源機構)が筑後川の水を導水する福岡導水路工事に着手し、昭和58年から通水を開始しました。

福岡都市圏は昭和53年と平成6年に大渇水に見舞われています。福岡市では昭和53年には4054時間もあった断水時間が、通水開始後の平成6年には2452時間と大幅に減少し、給水車の出勤もなし(昭和53年には134333台が出動)と、福岡導水の施設が大いに活躍しました。現在、福岡導水施設は筑後川から最大2.767m/sの取水が可能となっています。これは、基山町の水道水全量と福岡都市圏10市6町における水道水の約1/3に相当します。

「ささえる力」福岡導水「信頼の水送ります」

福岡導水事業所の職員のみならず、多くの人々に支えられている福岡導水。仕事内容、やりがいなどについて関係各者にお話を伺いました。



福岡地区水道企業団 総務課 中川 泰夫さん

福岡地区水道企業団は、福岡都市圏の6市7町1企業団1事務組合により構成されています。福岡都市圏へ水道用水を供給しています。総務課の中川さんは広報の担当で、水源地での交流イベントの企画や福岡都市圏住民に対する筑後川の恵みのPRなどに取り組んでいます。

「6月1日〜7日の水道週間や、令和5年度を迎える企業団設立50周年に向けてイベントや広報グッズなど企画を練っています。交流事業については、「コロナ禍で思うようにいかない部分もありますが、参加して頂いた方に喜んでもらえたら、大変嬉しいです。筑後川の恵みについて「そうだったんだ」と分かってもらえるとやりがいがあります」



佐賀東部水道企業団 浄水課 菅 謙太さん

佐賀東部水道企業団は、佐賀市など2市4町で構成されています。福岡導水から



福岡導水場 山下 駿佑さん

取水した水は基山町へ、筑後川から取水した水は、佐賀市、神埼市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町へ供給する「用水供給事業」と用水供給事業より取水した水を蛇口まで届ける「水道事業」の2つの事業を行っている、全国でも珍しい企業団です。浄水課の菅さんは水質係として、日々の検査で浄水過程の水の安全と処理状況の確認をしています。「渇水や雨の影響で水質は日々変わりますが、どんな水であっても基準内におさめないとけません。責任の重さもありますが、水の安全を守っていくのはやりがいがあります」



福岡導水場 歌津 健二さん

福岡導水場のポンプには大型ポンプ2台と小型ポンプ2台の計4台のポンプがあり、24時間365日、水道水の元になる水を供給しています。昨年、この福岡導水の心臓部とも



ポンプ場設備整備工事の様子



更新した電動機には、TR-COMというIoTを駆使した監視装置を取り付けています。これにより、いつでもどこでも振動と温度を監視できるようになりました。



休みの日は久留米の町をウォーキング。
水天宮にもよくお参りに行きます。
(所長・吉久)

すいてんぐう
水天宮
水天宮は全国各地にある水天宮の総本宮。
筑後川の水神、海上安全の神、安産、子どもの守護神として信仰を集めています。

自然・見どころ

筑後川
九州一の大河。河畔に続く一本の道は、久留米市からうきは市吉井町までの約27kmのサイクリングロードとして整備されています。



みのう
耳納連山
都会あり、田舎あり。
なんでもそろいます。
(事務管理課・石田)



筑後川の恵みに育まれたまち 久留米

全国転勤で様々な場所を巡ってきた
機構職員の声とともにご紹介します!

福岡導水事業所が位置する久留米市は、人口約30万人が暮らす都市であり、筑後地域産業の中心地です。そういった街としての魅力がありながら、筑後川が北東部から西部にかけて貫流し、東部には東西約30kmにわたって屏風のように山々が連なる耳納連山があり、美しい自然に囲まれています。



こうらたいしゃ
高良大社
筑後国一の宮であり、国の重要文化財で九州最大級の社殿を誇ります。



筑後川花火大会
水天宮の奉納花火であり、360年以上の歴史があります。

食



焼きとり
食べ物なんでもおいしい!
餃子と焼きとりがおすすめです。
(調査設計課・小林)



福岡県のブランドいちごの「あまおう」やぶどう、ブルーベリー、梨、柿などの観光果樹園では、一年を通してフルーツ狩りを楽しむことができます。ちなみに、福岡導水事業所とおなじく久留米市に事務所を構える筑後川下流用水管理所では、「あまおう」を紹介する水の恵みカードも配布しています!



久留米ラーメン
久留米は、言わずと知れたとんこつラーメン発祥の地。



筑後うどん
柔らかな麺と、昆布やかつおなどを使った優しい味わいの出汁が特徴。



日本酒
日本三大酒どころのひとつ。古くから筑後川沿いを中心に酒蔵が立ち並び、現在も日本有数の酒蔵数を誇っています。



職員 Interview



管理課
藤野 好文

機械設備(ゲート・ポンプ)の維持管理を主体として、整備計画の作成、工事発注から監督を担当し、自ら点検作業も行っています。ポンプは福岡導水の心臓部ですから、常に緊張感を持って仕事をしています。設備の故障や不具合を未然に防ぐため、日々の点検では設備の状態を肌で感じ、整備・修繕計画をたて対策を講じるという、地道な作業の繰り返しですが、水の安定供給に少しでも寄与しているかな、とやりがいを感じています。



事務管理課
石田 聡一

経理出納や人事関係の事務を担当しています。経理出納事務は今まで経験がなく、自分の仕事の進め方を確立するためには予算管理が不可欠なので、そこが滞りなく進むように心がけています。職員の皆さんが働きやすい環境を目指して、自分の仕事が一助になれば、という思いで日々業務に取り組んでいます。



“いつもと違う動き”
で職員に水質異常を
伝えます。

水質監視担当
おまけ
金魚

福岡導水では水道用の原水を供給するにあたり、水質に異常がないか常に機械装置で監視しているのですが、「機械」だけでなく「金魚」もいっしょに水質を監視しています。金魚たちは7、8年ほど勤務しており、事業所の誰よりもベテランとのこと。体長18cmほどのビッグサイズに成長しています。



調査設計課
小林 志歩

現在実施中の地震対策事業のうち、調査や設計業務に関する企画立案及び業務の発注、また、業務実施における地元の方々との調整を担当しています。自分の課内はもちろん、日頃から水管理・施設管理を担当している管理課の方々から完成後の施設の管理のしやすさ等の面でアドバイスをもらいながら、いろいろな視点で業務を進めています。調査業務の結果に基づき設計を行い、設計に基づいて工事を発注して、と事業を繋げて考えていけることが面白いです。

10003年の通水開始からおよそ40年が経過している福岡導水では、施設の老朽化や大規模地震への対策として、「福岡導水施設地震対策事業」が進められており、維持管理と建設事業の両方に職員が丸となって取り組んでいます。

福岡導水事業所の吉久寧所長に、今後について聞きました。

「これから、ピークにさしかかかっていく地震対策事業を着実に推進していきます。そして変わらず、水を絶やさず流し続けるという使命をきちんと果たしていきたいです。」

ソフト面では、次の3つに取り組んでいきたいと考えています。まずは、「技術の伝承・継承」です。福岡導水は昭和51年に着工、昭和58年には通水を開始しており、導水施設のほとんどが昭和50年代にできています。建設事業に携わってきた方がだんだん少なくなっている中、その時代の知識やノウハウについて聞くことができる人がいるうちに、後輩職員に伝承するよい機会をつくってきたいです。次に、情報発信です。福岡導水事業所のある久留米は福岡導水の受益地ではなく、さらに施設は地下に潜っていてわかりにくい。知名度は高くありません。福岡都市圏の暮らしを支える福岡導水事業、水資源機構を知ってもらえるようにPRしたいと思います。最後に働き方改革です。より働きやすい職場にするためにどうすればよいか、施設を管理しながらなので難しい面もありますが、改善策を考えていきたいです。」



福岡導水事業所 吉久 寧 所長

「今は地震対策事業と管理を両方やっていて、業務量が多い。でも、職員みんな頑張ってくれていますよ」とあたたかいまなざしを向ける姿が印象的でした。